基本理念

一、私たちは〝地域医療支援病院〟として、医師会会員ならびに各医療機関との医療連携をもとに、高い医療レベルを堅持、地域医療の向上に貢献します

二、私たちは患者の立場を尊重し、その信頼と期待に応え、誠実に〝心ある医療〟を心がけます

三、私たちは、変革する医療情勢に対処しながら、地域住民の福祉・保健医療サービスの確立に努め、医療センター内外に積極的に活動します

四、私たちは、職員としての〝誇りと責任〟を自覚し、つねに自己研鑽を重ね、互いに協力して、医療センターの発展に努めます

医の心

患者さんの悩み、苦しみ、痛みに共感する心

患者さんに慰めの手、いたわりの手が自然に出る心

患者さんのために尽くす心

患者さんに真実を伝えて納得同意を得るように努める心

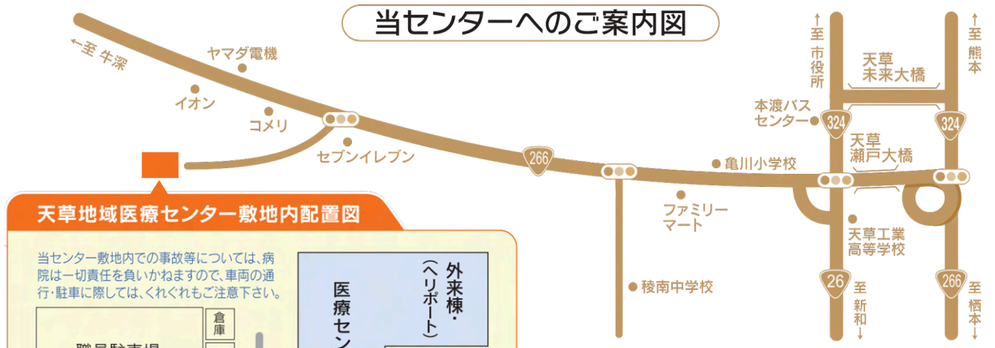
外来診療一覧表

令和5年4月現在

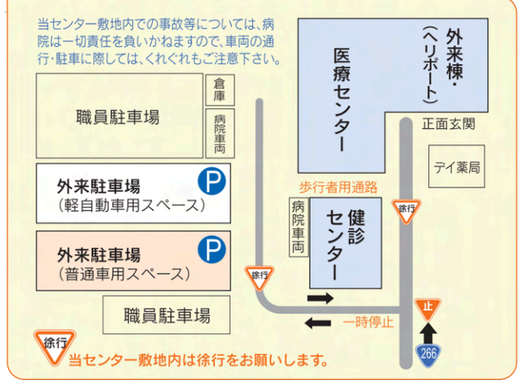
	診療科目	月	火	水	木	金	受付時間
一般外来	脳神経外科	坪田・出来田			坪田・出来田		7:30～11:30 ※急患については24時間対応
	外　　科		吉仲・髙田・坂田		原田	原田・吉仲・髙田	
	整形外科	大江・堀内		堀内・石松・髙木		大江・山田	
	循環器科	永吉		永吉・西		永吉・西原	
	消化器内科			坂井(*1 馬見塚 小泉)	中垣		
	代謝内科	守田	守田	宮川	宮川	(再診のみ)	
	放射線科		担当医				
	泌尿器科	陣内	山中		野尻		
	呼吸器内科 *3		担当医(熊本大学病院)			担当医(済生会熊本)	
	総合診療科	谷口	(再診のみ)	松本	鶴田	(再診のみ)	
小児科外来	小　児　科 *2	野中 濵	濵 坂口	野中 坂口	坂口 濵	野中 坂口	8:00～11:30 13:45～16:00 ※急患については24時間対応
特殊外来 *4	神経内科	月 4 回　土曜日					予約制
	リウマチ膠原病内科	月 2 回　土曜日					
	消化器内科	月 2 回　土曜日					

*1 消化器内科の水曜日は隔週交代での診察となります
*2 小児科は上段が午前担当医、下段が午後担当医の診察対応の表記となります
*3 呼吸器内科は非常勤で原則、午前中の受付・診察となります
*4 土曜日の特殊外来については、予約制となりますので、電話にて予約をお願いします

当センターへのご案内図



天草地域医療センター敷地内配置図



一般社団法人　天草郡市医師会立

天草地域医療センター

院長　吉仲　一郎

〒863-0046 熊本県天草市亀場町食場854番地1

TEL 0969-24-4111（代表）

FAX 0969-23-4086　URL http://www.amed.jp

天草地域医療センター広報誌

あまいせ便り

2023.May

vol.14

【編集・発行】
天草地域
医療センター
新聞広報委員会



P 1 ごあいさつ
P 3 診療科のご案内
P14 退任医師
P15 新任医師のご挨拶
P17 新人スタッフ・看護師
P17 編集後記



ごあいさつ

院長　吉仲　一郎

新緑の季節が訪れ、街中が爽やかな風に包まれる5月になり、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

2019年12月に中国武漢市から報告された新型コロナウイルス感染症は、発生から約３年半余りが経過しました。5月8日から「2類相当」から「5類」へ格下げされ、インフルエンザと同等の対応が始まりました。マスクの着用は個人の判断に委ねられ、多くの外国人観光客の受け入れやゴールデンウィークの混雑などが重なり、5月中旬から第9波の到来が懸念されています。天草地域医療センターでは、5月いっぱいはゴールデンウィークの影響を見守りながら、従来の対策を続ける予定です。

今年度、新入職員24名（医師10名、研修医２名、看護師８名、臨床検査技師４名）が加わりました。新しい風を取り入れ、一緒に力を合わせて地域の皆様に必要な医療を提供してまいります。専門領域の充実はもちろん、特に「救急医療」に注力していくことを目指しています。

医療業界は、高齢化に伴う医療費増加、医師不足、過労死、診療報酬問題など、多くの課題に直面しています。さらに、新型コロナウイルスのパンデミックが医療システムへのプレッシャーを高めています。

巷では、2022年11月にOpenAI社が公開したAIチャットサービス「ChatGPT」は、2023年1月にはアクティブユーザーが1億人に達し、かつてないほどのスピードで利用者が増加しています。「ChatGPT」はまるで画面の向こうに人間がいるかのように、自然な言語でコミュニケーションを取りながら疑問に答えてくれ、今後各種業界に多大な影響を及ぼすと言われ、医療分野においても多くの可能性を秘めています。いくつか例を挙げると①画像診断や病歴データを解析し、病気の早期発見や診断精度の向上。②患者の遺伝子情報や病名に基づいて最適な治療を提案する。③遠隔診療や遠隔手術が一般化し、地域格差の解消や医療アクセスの向上。④効率化された診療や治療法により医療コストの削減。⑤医療教育ではトレーニングや研修を支援し、教育水準の向上。等々、枚挙に暇がないほどあらゆる領域で飛躍的変化が起きるのではないかと期待しています。

当院では、今年度、電子カルテの更新を予定しています。時代の変化に適応し、業務効率化を目指して様々な取り組みを進めていきたいと思います。

本年度も引き続き、皆様に安心で質の高い医療を提供できるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



退職にあたって

循環器内科　境野　成次

早いもので最初に天草地域医療センター設立時の1992年4月1日に赴任してから31年が経過しました。一昨年の11月、定年の65歳となりました。皆様のご厚意で引き続き、約1年間、循環器内科顧問の肩書きで診療を続けさせていただきましたが、この3月で退職することになりました。この間、荒尾市民病院に勤務しました5年間を除いて、延26年間、当センターに勤務させていただきました。医師としての仕事人生の大半を天草で過ごしました。在任中、医師会の先生、天草地域医療センター勤務の医師の方々、看護師さん、検査技師さん、放射線技師さん、薬剤師さん達など数多くの方達に助けていただきながら、なんとか大火なく定年を迎えることができました。皆様方のお陰であり、感謝しきれない思いです。4月から熊本市に移住いたします。ありがたい事に、雇っていただける病院がございましたので、医師の仕事を暫くは続けます。4月以降も月一回程度、天草に来ることになっていますので、再会できますことを楽しみにしております。簡単ではございますが、お別れの言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。



脳神経外科


脳神経外科部長
坪田　誠之
(H12年卒)


脳神経外科医師
出来田　祐治
(H31年卒)

脳神経外科は坪田部長、出来田の2名で診療にあたっております。くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、頭部外傷など、緊急での対応を要する疾患が多くを占めています。当科では、緊急手術や、急性期脳梗塞に対するt-PA治療が行えるよう取り組んでおります。他にも脳腫瘍や機能的疾患に対しても手術を行っております。超高齢の患者さんや、状態の厳しい患者さんなども増加しておりますが、より各々の希望に沿った医療を心がけ、日々の診療にあたっています。「天草全土の急性期脳疾患は全て診る」をモットーに24時間、365日、対応しております。血栓回収術や脳血管内手術などの血管内治療を要する場合は、熊本大学などと連携を、また変性疾患など特殊な神経疾患に対しても神経内科専門施設と連携をとり、治療を行う支援体制が整っております。脳神経外科学会に参加して、最新の治療の知見の獲得や、学会発表を行い、また定期的に近隣の医療機関の医師と神経放射線カンファレンスを行い、症例検討を行うことで、常に質の高いエビデンスに基づいた医療を患者様に提供できるように努力しております。

【症例数・治療・成績】

病棟は常に約30名前後が入院し、令和4年度の入院患者数は426名です。手術件数は55件で、主な疾患では脳動脈クリッピング術5件、開頭血腫除去術2件、慢性硬膜下血腫先頭洗浄術34件、水頭症手術5件、脳血管内治療1件です。全ての手術について、自然歴、治療方法、治療リスクなどを丁寧に説明し、慎重に手術適応を決定します。

循環器内科


副院長・循環器科部長
永吉　靖央
(H9年卒)


循環器科副部長
西原　大貴
(H23年卒)


循環器科医師
西　雅人
(H24年卒)


循環器科医師
出来田　美和
(H28年卒)

当院開院時から天草の地域医療に貢献された境野成次先生が異動され、本年度より新体制となりました。今まで築かれた診療体制を受け継ぎ、天草医療圏の循環器疾患の砦としてスタッフ一同気を引き締めて診療にあたりたいと思います。

当科での診療の主体となっていますのは①虚血性心疾患②ペースメーカーを必要とする徐脈性不整脈③心不全です。2022年の治療実績として160件のカテーテルインターベンション治療（経皮的冠動脈形成術135件、抹消血管治療25件)70件のペースメーカー植え込み術を行いました。

虚血性心疾患は労作性狭心症などの慢性冠症候群と急性心筋梗塞に代表される急性冠症候群に分けられます。近年のガイドラインの改訂などにより慢性冠症候群の治療は投薬での加療が主体になりつつあります。しかし急性冠症候群に対して迅速な血行再建術が必要とされることには変わりがありません。当院は天草医療圏で唯一の24時間365日心臓カテーテル検査、治療可能施設として、迅速な治療で救命率向上を図っています。また、心不全については弁膜症、心筋症などの心不全の背景を明らかにし、多職種連携して再発を食い止められるように取り組んでいます。もちろん高度医療センター、かかりつけ医との連携は欠かせませんのでよろしくお願いいたします。

最後に、当科では国内外での学会活動、論文活動も活発に行っています。いずれも天草の日々の診療から得られた知見を形にしたものです。コロナ禍で研究活動も厳しい状況ではありましたが、研究の拠点としても天草から情報発信できるように努力してまいります。

外　科

院長以下常勤5名、非常勤1名のスタッフ（院長：吉仲、副院長：髙田、外科部長：坂田、医員：北村、内藤、非常勤：原田）で消化器（食道、胃、大腸、肝・胆・膵）疾患の外科診療はもとより、呼吸器外科（帰郷、転移性肺癌など）、内分泌外科（乳腺、甲状腺など）、一般外科（ヘルニアなど）救急外科（交通外傷など）など多領域にわたり外科全般の診療を行っております。近年は300-350件程度の手術症例です。

当院は熊本県指定のがん診療連携拠点病院でもあり、癌手術は食道癌、胃癌，大腸癌、乳癌、甲状腺癌、肺癌などの他に肝・胆・膵領域癌の手術も行っております。


院長
吉仲　一郎
(S57年卒)


副院長
髙田　登
(S60年卒)


外科部長
坂田　和也
(H19年卒)


外科医師
北村　文優
(H25年卒)

患者さんの負担を減らすために平成26年度から腹腔鏡下の手術を導入しました。腹腔鏡下手術は開腹手術に比べ傷が小さく、手術後の痛みが軽い、癒着しにくい、入院期間が短いなどの利点があります。悪性腫瘍では胃癌、大腸癌などを中心におこなっており、昨年度は胃癌18例中16例、大腸癌は46例中39例を腹腔鏡下手術で行っております。良性疾患では胆石・癒着性イレウス・ヘルニア・虫垂炎などの大部分は腹腔鏡下で行っております。

癌の診療は外科治療に限らず、化学療法や緩和医療にも力を入れています。外来棟の2階に広くゆったりとした外来化学療法室があり、快適な環境で行えるようになっています。

開放型の病院としては、患者さんに最良の治療ができるように医師会の先生方としっかりとした連携を維持できるように努力しています。またより気軽に相談していただき、顔が見える関係が築けるように月1回の消化器症例検討会（臨床病理カンファレンス）を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症のため現在休止中です。参加御希望の先生はご連絡いただければ幸いです。

毎週木曜日には消化器内科と、合同カンファレンスを行い手術症例などについて検討を行っています。また外科の病棟並びに術前カンファレンスを毎週木曜日に行っています。

天草地域の特徴としてご高齢の患者さんが多く、それぞれの患者さんの病態に応じた最良の治療法を選択するように引き続き心がけて日夜努力しています。


外科医師
内藤　貴一
(R2年卒)


外科医師（非常勤）
原田　和則
(S50年卒)

麻　酔　科

当院では年間約1300件の手術を行っており、そのうち麻酔科管理症例は主に外科、整形外科、泌尿器科、脳神経外科で年間1000件ほどです。ここ数年はほぼ横ばいとなっています。最近の手術の傾向としては鏡視下の手術が増加しており、以前と比べ患者さんとっては侵襲の少ない手術が行えるようになっていると思います。その反面手術時間は以前より長くなる傾向にあり、以前と比べ件数以上に手術麻酔に専念せざる得ない状況です。そのためペインクリニックや集中治療等の麻酔科が以前関与していた分野の診療が出来ない状況が続いており各科の先生方や天草医師会の諸先生に負担がかかっていると思うと恐縮です。現在のところ熊本大学、麻酔科同門の先生の応援を頂きながら24時間365日、緊急手術に対応できる体制を維持できています。

少人数スタッフで出来る仕事は限られていますが、天草の皆さんが、安心して手術を受けられるように安全かつ苦痛の少ない麻酔を行うように心がけていきます。


麻酔科部長
寺崎　秀平
(H18年卒)


麻酔科副部長
増田　和之
(S58年卒)



整形外科



整形外科部長
大江　浩一郎
(H4年卒)



整形外科副部長
堀内　秀俊
(H11年卒)



整形外科副部長
山田　正寿
(H13年卒)



整形外科医師
石松　憲明
(H24年卒)



整形外科医師
髙木　寛
(H30年卒)

当院では平成22年より4名の整形外科指導医で日常診療にあたらせてもらっていましたが、令和2年度より整形外科専修医1名の受け入れが始まり、令和5年4月より整形外科専門医の石松憲明先生、専修医の髙木寛先生と若きやる気に溢れた先生を迎え、現在5名の医師で診療を行っています。

外来日は、(月)(水)(金)の午前中で、定期の手術日は(火)(木)ですが、他科の手術が入ってない時間を選び各部署と相談の上、ほぼ毎日手術を行っています。また、土日祝日でも、救急患者さんや緊急手術に24時間対応出来るように、2人体制でのローテーションを組んで対応しています。

昨年度は、コロナの影響もありましたがコロナ前の例年同様に、手術症例は年間600例越えでした。高齢者の大腿骨転子部骨折、大腿骨頸部骨折、各種外傷の治療から股関節、膝関節等の変性疾患に対して除痛目的での全人工関節置換術等多岐に渡る手術を行っています。また手関節や足関節面の骨折に対しては、症例により関節鏡を併用した手術にも取り組んでいます。高齢者の大腿骨近位部骨折に関しては、麻酔科の先生のご理解もいただき準緊急手術と位置付け可能な限り早期に観血的加療を積極的に行っています。手術室が3部屋しかないため、手術が入らず、手術室でしていたピンニングを透視室で行ったり、広範囲外傷を局所麻酔のみで救急外来で行ったりと色々工夫をしてやり繰りをしています。

まだ症例数は少ないのですが膝関節痛に対する保存療法として令和3年5月に認可を受け、同年8月より整形外科分野で「PRP(多血小板血漿)療法」を導入いたしました。「PRP療法」とは、患者さん御自身の血液から治療に必要な成分を抽出し、痛みや炎症の強い部分に注射する方法です。当センターでは変形性関節症に用いられている「APS(自己蛋白溶液)療法」が可能となりました。しかし、自由診療で高額負担になるのがネックになり症例を選ぶ必要もあるため、ご興味のある患者さんがいらっしゃいましたら是非ご相談下さい。脊椎外科に関しては当院には、専門医が不在のため、熊本市内や八代市の専門医の先生へお願いしています。

整形外科の取り扱う疾患は多岐に渡りますが、天草圏内の患者さんの事は天草で治療を完結出来るよう、地域の先生方との連携を大切に迅速な対応を心掛けております。外来時間外の救急患者さんの受け入れに関しては、迅速に患者さんの診療に当たれるように、スタッフの調整を事前に行う必要があるため、電話連絡を頂けると助かります。ご理解の程よろしくお願いいたします。

消化器内科



消化器内科部長
坂井　良成
(H14年卒)



消化器内科副部長
中垣　貴志
(H23年卒)



消化器内科医師
馬見塚　大悟
(H29年卒)



消化器内科医師
小泉　大海
(R2年卒)

当科は、土曜日特殊外来として、熊本大学消化器内科から非常勤の派遣が始まり、現在も月2回ではありますが、継続しています。常勤医としては、平成21年4月から派遣が始まりました。1年目は2人体制でしたが、平成22年からは3人体制、平成28年より、4人体制で診療させて頂いています。診療内容は、消化器疾患を外科と連携し行っています。

消化管疾患は、急性胃腸炎や出血を伴う胃・十二指腸潰瘍、大腸憩室出血、虚血性腸炎などの緊急疾患をはじめ、上下部内視鏡検査・NBI拡大内視鏡検査により食道・胃・十二指腸・大腸の腺腫や癌、胃十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病など)等の診断並びに治療を行っています。大腸ポリープ切除や早期の食道癌・胃癌・大腸癌に対しては内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)や内視鏡的粘膜切除術(EMR)などの内視鏡治療を行っています。また、食道静脈瘤の破裂時や破裂予防の内視鏡的硬化療法(EIS)・内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)や胃潰瘍、十二指腸潰瘍からの出血時の緊急内視鏡的止血術も行っています。

肝疾患については、急性肝炎や肝膿瘍、肝細胞癌破裂などの緊急疾患をはじめ、慢性肝炎、肝細胞癌などの精査・治療を行っています。C型慢性肝炎は95%以上でHCV排除が可能な経口薬による抗ウイルス療法や、B型慢性肝炎はインターフェロン療法や、核酸アナログ製剤による治療を行っています。肝細胞癌は診断や治療(化学療法や免疫療法、肝動脈塞栓療法(TAE))を放射線科と協力し行っています。その他にも、増加傾向である非アルコール性脂肪肝炎(NASH)や特殊な自己免疫性肝炎や原発性胆汁性肝硬変なども診療しています。

胆道・膵疾患に対しては、急性膵炎や急性胆管炎などの緊急疾患や閉塞性黄疸、膵癌、胆管癌などの精査・治療を行っています。胆管炎の緊急処置として、緊急内視鏡治療(内視鏡的逆行性胆道ドレナージ術)など行っています。総胆管結石などは、内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)を行い、内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)など行いながら、採石まで行います。必要時、経皮経肝胆道ドレナージ(PTCD)、メタリックステント留置術も行っています。

以上のように、消化器疾患を全般的に行っています。外科とも密接な連携をとることで、患者様が、より安全に、そして、より安心して治療を受けて頂けるよう心がけ、頑張っていきますので、これからもよろしくお願い致します。

当院での最近の内視鏡件数

	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年
GF	1692	1861	1872	1936	1926	2051
食道ESD	4	2	6	5	8	7
胃ESD	35	38	54	32	43	51
CF	1243	1260	1172	1250	1229	1288
大腸ESD	15	16	27	25	32	19
ERCP	266	294	349	275	217	226

代謝内科

代謝内科では、糖尿病、代謝、内分泌疾患全般の診療を行っています。
主な対象疾患は、糖尿病、高血圧症、脂質代謝異常症、下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患などです。


代謝内科部長
守田　雄太郎
(H23年卒)


代謝内科副部長
宮川　展和
(H25年卒)

【外来診療日】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
代謝内科	守田	守田	宮川	宮川	(再診のみ)

※新患受付は午前11時30分まで、原則紹介状が必要です。

①糖尿病管理

管理中の糖尿病患者数は800名以上です。管理栄養士による栄養指導、糖尿病認定看護師や糖尿病療養指導士による糖尿病療養指導を行っています。透析予防の指導、フットケアなど個人にあわせたテーラーメードの糖尿病診療を行っています。

②糖尿病地域連携

天草地域の糖尿病連携医の先生方との二人主治医制の循環型連携を行っています。

③外来インスリン導入、糖尿病療養指導

糖尿病療養指導士や認定看護師が、外来でのインスリン導入のお手伝いをします。

④在宅での糖尿病管理

ケアマネージャー、デイケアセンター、訪問看護、調剤薬局の訪問薬剤師、訪問歯科医師、訪問歯科衛生士などとICT(クラウド型のSNS)を用いた連携をしています。

⑤在宅での糖尿病管理

毎年、世界糖尿病デーの11月14日を含む糖尿病週間の1週間、天草キリシタン館をブルーにライトアップしています。

※新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、糖尿病教室や天草糖尿病ウォークラリーなどのイベント、講演会は当面の間中止としております。

お問い合わせ先:metabo@amed.jp

放射線科

放射線科では、CT・MRIを用いて、診断・治療に必要な画像の撮影および画像診断レポート作成を主な業務としています。そのほか、肝細胞癌に対するTACE(肝動脈化学塞栓術)、出血に対する止血術、生検、ドレナージなども行っています。2020年10月に吉田守克先生から中村に放射線科部長が交代となり、本年4月に吉田龍也先生が専修医として赴任しており、現在3名体制(放射線診断専門医2名、専修医1名)で勤務しています。また、検査件数は年々増加傾向にあります。


放射線科部長
中村　信一
(H16年卒)


放射線科医師
溝尻　智大
(H26年卒)


放射線科医師
吉田　龍也
(R2年卒)

CT検査

Siemens社のDual Source CTであるSOMATOM Drive(Drive)およびPhilips社製の256 sliceのCTである Brilliance iCT (iCT)を用いて検査を行っています。いずれも高性能な装置です。SOMATOM Driveでは、2つのX線管球を搭載しており、2つの管球から同時に異なるエネルギーのX線を出力するDual Energy CT撮影を行うことで、椎体の新鮮圧迫骨折の評価などが可能です。また、2つのX線管球を搭載していることから、2つのX線から同じエネルギーのX線を出力することによって、短時間で画像を得る高速撮像(Drive Spiral)も可能であり、息止め不良な患者様でもアーチファクトの少ない高画質な画像を提供できます。また、冠動脈CT検査においても高い空間分解能を生かし、アーチファクトの少ない画像を提供できる様になりました。
また、金属アーチファクト低減技術(iMAR)も搭載しており、大腿骨頭置換術後の金属アーチファクトで評価不能であった骨盤部の評価(イレウスの閉塞機転など)にも寄与しています。Drive、iCTともに、低管電圧撮影を行うことで、少ないヨード造影剤でこれまでと同等の診断精度の画像を得ることが可能です。
当科では患者様の被ばく低減にも積極的に取り組んでいます。当院のCT装置は様々な病態に対して、非常に有用な情報を提供可能な装置ですので、積極的にご利用頂ければ幸いです。

MRI検査

Philips社製の3.0T MR装置であるIngenia 3.0T、Siemens社製の1.5T MR装置であるMAGNETOM Avantoが稼働しています。3.0T のMR装置は、1.5T のMR装置よりも、強い磁場を利用できるため、信号も強く、良好な画質を得ることができますが、体動などのアーチファクトの影響を受けやすいという弱点もあります。対象となる検査部位および患者様の状態により、3.0Tおよび1.5Tの機械に適宜振り分けての検査を行っています。
なお、MRI検査については、CTと異なり撮影禁忌となる体内デバイスや、目的とする病変や領域などの制約がある場合が多いため、検査内容について不明な点がある場合には、放射線科までご一報いただければ幸いです。

IVR (vascular IVR, non-vascular IVR)

2019年より、Siemens社製のIVR-CT装置が導入されました。血管造影装置およびCT装置が連動するnexaris systemを搭載しており、これまでの血管造影装置より良好な画質を得ることが可能です。(このnexaris systemを搭載したIVR-CT装置は国内一号機になるそうです)また、コーンビームCTなども可能であり、腫瘍の栄養血管の同定などに役立っています。また、CTガイド下の手技(生検・ドレナージ)においても、被験者だけでなく、術者の被ばくも低減するシステムが搭載されています。画質も非常に良好であり、手技に非常に役立っています。

その他(CT検査依頼の際の被ばく説明の必要性および被ばく説明書のご案内)

2020年の4月の医療法改正を受け、"診療用放射線に係る安全管理体制に関するガイドライン"が整備されました。患者に対する放射線診療実施前の説明方針が定められていますが、その中に「放射線診療を目的とした紹介患者については、紹介する病院等と紹介を受ける病院等の双方において正当化及び最適化、患者に対する情報提供を行うこと」と記載されています。そのため、C@rnaを含め放射線科にCTの検査依頼をいただく際にはあらかじめ放射線被ばくの説明を患者様に行っていただく必要があります。説明の補助となる資料を作成しましたので、先生方に本年5月末ごろの配布を目指しているところです。お手数をおかけし誠に恐縮ですが、ご理解の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

【医療放射線被ばくに関する説明書】

CT検査は、放射線(X線)を用いた検査であるため、被ばくを伴います。これを医療被ばくと言います。CT検査には少量の放射線が用いられますが、健康影響が報告されている量よりも非常に少ないものです。

検査の必要性

放射線検査は、得られる医療情報による利益が被ばくによるリスクより十分に大きいと判断される場合に行われます。検査の必要性につきましては主治医にお尋ねください。

当院のCT検査による被ばく線量およびその影響について

CT検査での、実際の被ばく量は10mSv前後です。被ばくにより健康への影響が発生するのは、100mSvほどからと言われており、健康影響が報告されている量よりも非常に少なくなっています。また、被ばく線量の指標としては、診断参考レベルが用いられますが、当院では2020年の診断参考レベルと比較して、だいたい半分ほどの被ばく線量で CT検査を行っています。なお、体型や撮影条件によって線量は増減します。なお、ご自分の被ばく線量などについて確認なさりたい方は主治医もしくは放射線部へお問い合わせください。

当院の医療被ばく低減への取り組み

当院では2010年ほどから被ばく低減についての研究に積極的に取り組んでいます。2017年からは、最新鋭のCT装置を導入し、更なる被ばく低減および検査の質の向上に対して、最新の技術・知見を導入しています。小児においては小児専用の撮影条件を作成し、より一層被ばく線量の低減に努めています。

泌尿器科



泌尿器科部長
陣内　良映
(H3年卒)



泌尿器科医師
山中　達郎
(H27年卒)



泌尿器科医師
野尻　拓矢
(H30年卒)

当科は天草地域医療センターにおいて泌尿器科全般と血液浄化療法を担当させていただいております。人員は3名、令和元年より陣内良映、令和4年より野尻拓矢、令和5年より山中達郎で、収束しつつある新型コロナに負けずになんとかやっております。

泌尿器科領域は尿路悪性腫瘍(腎細胞癌、腎盂尿管癌・膀胱癌、前立腺癌、精巣がん)のほかにも尿路結石、下部尿路機能障害、炎症性疾患の診療を行っております。

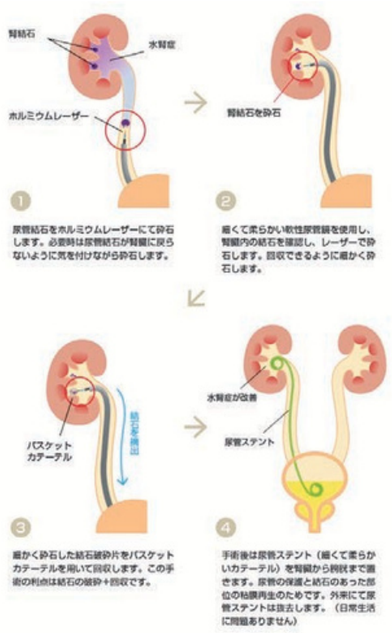
手術は基本的には水、金の週2日間。腎腫瘍、腎盂尿管腫瘍、副腎腫瘍に対する(後腹膜鏡も含めた)腹腔鏡・開腹手術や膀胱腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石に対する経尿道的内視鏡手術を中心に行っています。特に平成30年4月より尿路結石破砕用レーザー機器を購入し、さらに昨年より最新の軟性尿管鏡(Cobra:2チャンネル)を用いて天草地域での積極的な尿路結石の治療が可能となりました。

＜CVP＞

手術症例数は令和3年度248例(うちTULは41例)、令和4年度242例(うちTULは35例)でした。また、男性排尿障害の外科的治療を目的に令和4年5月よりCVP(レーザーによる経尿道的前立腺蒸散術)を行っており、従来のTUR-Pに比較してほぼ出血のリスクなく同様の治療効果を得ております。

血液浄化部門では臨床工学技師4名(早井幸代室長、小崎、長野、石坂)・看護師の協力を主力に、月水金を中心に血液浄化療法を行ってます。その他内シャント造設や緊急バスキュラーアクセス造設術、シャント狭窄・閉塞に対しては緊急のPTA(経皮的血管形成術)も施行しています。急性期病院の性質上、緊急透析導入のみならずCHDF(持続的血液透析濾過療法)やエンドトキシン吸着などにも技師を中心に対応しています。

＜f-TUL＞



人員は3名ですが、臨床工学技師や看護師、多くのスタッフの協力を得ながら天草地域住民の患者さんに安心していただけるように努力して参りますので、開業医の先生方のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

総合診療科

総合診療科は、平成29年10月より当センターにて非常勤医師が、外来診療を開始しましたが、平成31年4月より熊本大学附属病院地域医療・総合診療実践学寄附講座より常勤医師が赴任し、外来,入院診療を担当させて頂いています。

当科は様々な疾患,健康問題に対して、特定の診療科,専門領域,臓器や疾病だけに係わらず、全人的に、包括的な診療を提供する事を目指している診療科です。身体などの臓器の問題なのか明らかでない、あるいは多彩な訴えや症状があり受診すべき診療科が明らかでない、といった患者さんを総合的に診療させていただきます。必要に応じて専門診療科をご紹介させていただく場合や、総合診療科で継続して診療させていただく場合もあります。

以下ような方は、お気軽にご相談下さい。

・症状の原因となる臓器や異常が分からない。(倦怠感、発熱、体重減少、むくみ、様々な所の痛みなど)
・いろいろな症状があり、どの診療科を受診すればよいか分からない。(複数の診療科が該当する場合や、複数の症状や疾患をお持ちのご高齢の方など)
・現在かかっている病気に対する相談(専門的な説明が分からない、薬や治療のことで分からないなど)
・治らない病気で困っている(がん、慢性進行性の病気、老化や疾患の今後に関わる問題など)
・健康問題での不安がある(健康診断で異常、健康問題を害する生活習慣の改善、医療サービスの利用など)

このような方で受診をご希望される方は、かかりつけ医の先生に紹介状を書いていただいて、ご予約下さい。

尚、残念ながら、令和4年度から常勤医師1名体制で、十分に診療体制が整っていない状況で、ご不便おかけするかもしれない事を、どうかご容赦下さい。また、研修医や医学生の教育・研修にもご協力頂ければ幸いです。



総合診療科部長
谷口　純一
(H元年卒)



総合診療科医師(非常勤)
鶴田　真三
(H22年卒)



総合診療科医師(非常勤)
松本　朋樹
(H26年卒)

研修医



宇原　寛達



糸井　秀彰



松木　崇



小原　直大



大笹　悠一郎



小児科



小児科部長
野中　俊彦
(H23年卒)



小児科医師
濵　里奈
(H27年卒)



小児科医師
坂口　哲矢
(H31年卒)

小児科は、3名の常勤医で診療を行っております。

一般外来は、感染症をはじめ、内分泌・代謝疾患、てんかんなどの神経疾患、アレルギー疾患、心疾患、腎疾患、先天異常など、幅広い領域の診療に対応しています。

特殊外来として、熊本大学小児科の三渕浩先生の「先天代謝異常・発達外来」、熊本大学小児科の仲里仁史先生の「腎臓外来」を2ヶ月に1回、行っています。また、「小児アレルギー外来」を、国立熊本医療センター小児科の緒方美佳先生が、偶数月の第2金曜に行っています。小児アレルギー外来では、食物アレルギーの検査・診断や、食物経口負荷試験（日帰り入院、外来）も行っております。1回3名までの初診枠となっておりますので、事前に電話予約を取っていただく必要があります。

当院は、天草地域で唯一小児の24時間の入院対応が可能な施設で、熊本県の小児救急拠点病院に指定されています。開業の先生方や、熊本大学病院小児科の先生方の協力を得ながら、24時間365日の小児の救急疾患に対応できるように努めております。当院では対応が難しいような、高度な医療を必要とする患者様については、熊本市内の対応可能な病院への転院を行っています。転院方法は、救急車やDrヘリなど、患者様の重症度や、日時、天候などを考慮し、より安全かつ迅速な転院搬送ができるように心がけています。

当院には、産婦人科はありませんが、他院で出生した新生児の対応が必要な場合は、当院小児科医が出向し、NICUへの入院が必要な患者の転院などの対応をさせていただいております。

小児の新型コロナウイルス感染症に対しても、入院加療が必要な小児患者の受け入れを行っております。ワクチン接種や、ウイルス自体の重症化率の低下で、2類から5類感染症に移行されることになりますが、感染対策に留意しつつ、引き続き新型コロナウイルス感染症の診療にも対応させていただきます。

また、発達障害（神経発達症）や児童精神領域の診療は行ってはいませんが、近年増加している、起立性調節障害や過敏性腸症候群、頭痛、腹痛など心身症と呼ばれるような疾患に対して、精査、加療を行い、学校に行けない児童の治療や相談などにも対応していきたいと思いますので、日常生活・学校生活で困っている子がいましたらご相談いただければと思います。

小児科メンバーは、若い構成となっており、地域の住民の皆様や開業の先生方にとっては、心許ないと思われるかもしれませんが、天草地域の小児の医療と健康の向上に少しでも貢献できればと精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



特殊外来

リウマチ膠原病内科

●診療日：月1～2回／土曜日
●担　当：中村　正医師（S55年卒／桜十字病院）

「リウマチ膠原病」とは聞きなれない病名ですが、体の抵抗力を司る免疫機構に異常を来たし発病する全身性の病気です。その代表が関節リウマチで、日本に約100万人の患者がおり、男女比は1対4、中年女性に好発します。関節破壊は関節を包んでいる滑膜の炎症で始まり、炎症性滑膜が増殖し、軟骨・骨を破壊し、関節の変形を起こします。病変は当初は関節ですが、時間と共に肺や腎臓、眼、皮膚、心臓など全身臓器に及びます。関節の機能障害や全身合併症のために日常生活に支障を来たし、生活の質が低下、寿命も短くなります。かつて「治らない難病」と呼ばれていましたが治療法が大変革を遂げ、メトトレキサートや生物学的製剤の出現で、関節リウマチによる炎症、ひいては関節破壊を防ぐことができるようになりました。

早期に関節リウマチを診断し、適切な時期に適切な治療を行えば、日常生活を普通に送ることができます。関節リウマチ以外のリウマチ膠原病も様々な面で進歩が見られています。このような医療の進歩を地域住民が等しく享受できるように、当センターで活動しています。

消化器内科

●診療日：月2回／土曜日［熊本大学病院］
●担　当：吉丸　洋子医師（H14年卒）・田中　健太郎医師（H23年卒）

熊本大学附属病院消化器内科より派遣され、毎月第2土曜日と第4土曜日の午前中に勤務しております。肝臓疾患を専門とし、C型肝炎に対する抗ウイルス治療、B型肝炎に対する抗ウイルス治療、肝硬変の治療を主に行っております。また大学病院とも連携し肝臓癌の診療も行っております。熊本県は全国から見ても肝炎キャリアが多い地域です。C型肝炎、B型肝炎を放置するといずれは肝硬変、肝臓癌を発症します。まずは検診にてウイルスマーカーのチェックを行って頂き、もし陽性の場合は当科を受診されてください。キャリアの方を早期発見し、抗ウイルス治療など治療介入をすることで肝臓癌をきちんと予防することができます。また最近では脂肪肝の方でも一部の方が肝硬変に進展し、肝臓癌を発症することが知られております。検診で脂肪肝を指摘された方も是非、一度当科外来を受診されてください。天草地域の肝臓疾患の患者さんの診療に少しでも貢献できるようにこれからも頑張っていきますのでよろしくお願い申し上げます。

神経内科

●診療日：月4回／土曜日
●担　当：有馬　寿之医師（H7年卒）・植田　明彦医師（H13年卒）・原田　しずか医師（H29年卒）
水谷　浩徳医師（H26年卒）・池ノ下　侑医師（H26年卒）

神経内科は2018年より標榜診療科名が脳神経内科に変更されました。脳神経内科の外来では、パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの神経変性疾患をはじめ、多発性筋炎、重症筋無力症などの神経免疫疾患、頭痛やてんかんなどの機能性疾患など幅広い疾患を対象としております。担当医師は熊本大学病院からの派遣であり、毎週土曜日に外来診療を実施しております。手足のしびれ、頭痛、めまい、物忘れなどの症状でお困りの患者さんの原因を特定することや診断後の内服薬管理など天草地区の神経疾患の患者さんの拠点として、毎週土曜日に診療しております。外来患者さんが多く、混み合うことがありますので、受診の際は受診時間をご確認ください。宜しくお願い致します。

血液内科

●診療日：毎週金曜日［再診のみ］
●担　当：幸　宏道医師（H14年卒）



健診センター

当健診センターは、平成14年に現在の健診センターを開設し、今年で22年目を迎え ます。これまで、天草地域の保健活動の拠点となるべく、行政の行う健康増進法に基づく健康診断や医療保険者・事業所等による健康診断・人間ドックを実施し、併せて保健指導を行ってきました。実施に当たっては、併設の天草地域医療センターの協力をえて、医療機関と同レベルの医療精度を保つように努力しています。近年では、特定健診とがん検診を２本の柱として健診を行っています。この数年コメディカルスタッフの減少が続きマンパワー不足となり、平成30年度、平成31年度と事業の縮小を余儀なくされました。令和２年度になり万全とはいかないまでも、コメディカルスタッフの補充ができ、改善できる予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、健診事業が混乱いたしました。医師会の先生方の健診にも影響し、ご希望の日程に応えることができないこともあり、申し訳なく思っています。ようやく新型コロナウイルス感染が落ち着き、正常な形での健診ができる予定でしたが、担当医師の退職があり、以前のように事業を拡大できなくなりました。単価の高いドックの数を増やし、すこしでも収支の改善を図りたいと思っています。最低限のコメディカルスタッフ数ですが、健診レベルを保つように努力していきます。

なお、日曜の健診は下記のとおり、７月～12月まで月に１回行う予定です。多くの先生方のご利用をお待ちしております。



健診センター長
髙田　登

（Ｓ60年卒）



健診センター（非常勤）
谷村　正憲

７月23日、８月20日、10月15日、11月12日、12月17日



退任医師





循環器内科顧問
境野 成次



脳神経外科医員
森 遼介



外科副部長
中村 健一



消化器内科医員
野上 鈴夏



整形外科医員
相馬 史朗



整形外科医員
満瀬 葉介



泌尿器科副部長
矢野 大輔



代謝内科医員
矢野 雄久



放射線科医員
金谷 拓司



小児科医員
五嶋 恵佑



研修医
藤本 りいと



研修医
中川 央彰



研修医
宮﨑 由理恵



研修医
松﨑 恵里奈

新任医師のご挨拶





脳神経外科医員
出来田 祐治
平成31年卒

脳神経外科の医員として4月より赴任いたしました、出来田祐治と申します。医師としては5年目で、宮崎大学卒業後、熊本で初期臨床研修と入局をして昨年度は下関で勤務していました。まだまだできることが多いわけではありませんが、少しでも脳神経外科領域で天草の医療に貢献できるよう、精進いたします。天草に住むのは初めてです。まずは天草を1周したいと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



外科医員
内藤 貴一
令和2年卒

熊本大学出身の外科医として2年目の内藤貴一と申します。今回、天草地域医療センターへの就任を機にこの場を借りてご挨拶を申し上げます。この度天草地域医療センターに就任することを大変嬉しく思っております。地域の患者さんたちの健康にとって欠かせない施設として、地域の皆様からの信頼が厚くその役割は大切だと認識しております。患者さん一人ひとりに丁寧に向き合い医療を提供することを心がけてまいります。
新たな環境に身を置くことで、私自身も成長し皆様とともに天草地域医療に貢献できるよう頑張ります。何卒、ご支援とご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



整形外科医員
石松 憲明
平成24年卒

この度、整形外科に赴任いたしました石松憲明（いしまつかずあき）と申します。三重大学を卒業し、整形外科医として7年目になります。水俣総合医療センターから赴任して参りました。熊本大学整形外科に入局後、熊本市内の急性期病院勤務の後は、水俣で3年間勤務しておりました。久しぶりの転勤で、不慣れなところも多くご迷惑をおかけしながら診療に追われておりますが、職員の方には暖かく迎えて頂き、日々感謝しながら生活しております。少しでも天草の地域医療に貢献できるよう日々努力致しますので何卒よろしくお願いいたします。



整形外科医員
髙木 寛
平成30年卒

今年度より勤務させて頂くことになりました、整形外科の髙木です。
高校までは熊本市内、大学は長崎で生活しておりました。趣味はプロ野球観戦で、小学校から大学まで野球を続けていました。天草に暮らすのは初めてで非常に楽しみにしておりました。
少しでも地域医療に貢献できるよう、精進していきます。よろしくお願い致します。



泌尿器科医員
山中 達郎
平成27年卒

4月より天草地域医療センター泌尿器科で勤務している山中達郎と申します。
数年前に同じ泌尿器科の山中広太郎が当院で勤務しておりましたが、その弟です。似ているような似ていないような兄弟ですが、これから私も天草の医療に貢献できるように頑張る所存ですので兄弟共々何卒よろしくお願いいたします。
また私事ですが、赴任早々4月3日に娘が産まれました。最初は単身赴任となりますが、もう少ししたら親子3人で暮らす予定です。天草の空気の下で子育ても頑張ろうと考えておりますので、公私共に何卒よろしくお願い申しあげます。



代謝内科副部長
宮川 展和
平成25年卒

今年度から天草地域医療センター代謝内科で勤務させていただくことになりました宮川と申します。医師としては10年目になります。昨年度までは大学病院で勤務しておりました。天草には大学院在学中の外勤で定期的に訪れており、天草とは何かしら縁があったのだろうと感じております。とはいえ実際に常勤として天草で勤務するのは初めてであり、勝手がわからずご迷惑をおかけすることが多々ありますが、精進して天草の地域医療に貢献できるようになりたいと考えております。よろしくお願いいたします。



循環器内科医員
出来田 美和
平成28年卒

4月から天草地域医療センターで勤務させていただきます、循環器内科の出来田美和と申します。熊本大学を卒業後は、熊本医療センター、熊本市民病院、熊本大学病院と熊本市内の病院にお世話になりました。新しい環境に少し不安はありますが、子どもの頃からよく遊びに来ていた天草で働けるのを楽しみにしています。循環器内科医としてまだまだ未熟ではございますが、少しでも天草の皆様のお役に立てるよう精一杯がんばります。どうぞよろしくお願いいたします。



消化器内科医員
小泉 大海
令和2年卒

4月より天草地域医療センター消化器内科で勤務させて頂くことになりました小泉大海と申します。現在医師としては4年目になります。元々天草生まれで、幼少期は近くの海で釣りをしたり、十万山で遊んだりしていました。自分が生まれ育った天草で医師として働けることに大変やりがいを感じております。まだまだ大変未熟者ですが、地域のお役に立てるように精一杯頑張りますので、ご指導・ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い致します。



研修医
小原 直大

4月より研修医として勤務させていただくことになりました、小原直大と申します。福岡大学医学部を卒業しております。天草には初めて住みますが、海産物をはじめとした食事はおいしく、山や海に囲まれた自然も豊かでとても好きになりました。小中高大と野球・ソフトボールをしてきたので、地域にチーム等があり人数が足りないようでしたら、お声かけ頂けると幸いです。
未熟なところばかりでご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、少しでも地域の皆様の役に立てるよう、努力していきたいと考えておりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



放射線科医員
吉田 龍也
令和2年卒

放射線科の吉田龍也と申します。熊本大学を卒業後、熊本労災病院で初期臨床研修を修了し、昨年度は熊本大学病院で勤務しました。医師としては4年目になります。
天草での勤務は初期研修中の上天草総合病院での地域医療研修以来です。海がきれいで食べ物も美味しい印象が残っており、今回の赴任をとても楽しみにしておりました。
放射線科医としてまだまだ未熟ではございますが、職員の皆様に温かく迎え入れていただき、日々業務に励むことができ大変感謝しています。
天草の診療に少しでも貢献できるよう精一杯頑張りますので、ご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



小児科医員
坂口 哲矢
平成31年卒

今年度から天草地域医療センター小児科にて勤務させて頂く事になりました坂口哲矢と申します。医師として5年目、小児科医として3年目となりましたが、まだまだ駆け出しで不安な事も多々ありますが、職員の方々であったり、患者様であったりが温かく接してくださり楽しく仕事をさせて頂いております。
微々たる力ではありますが、少しでも天草の小児医療に貢献できるように精進していきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いします。



研修医
大笹 悠一郎

4月から天草地域医療センターで研修医として働かせていただきます、大笹悠一郎と申します。出身大学は佐賀大学です。私は生まれも育ちも天草で、生まれ育ったこの天草の地で医師としての初期研修を迎えられたことをとても嬉しく思います。
初めての経験ばかりでまだまだ未熟者ですが、先輩方や他の医療スタッフの方々、何より患者様から少しでも多くのことを学ばせていただき、医師としての研鑽を積んでいく所存です。どうぞよろしくお願い致します。



新人スタッフ・看護師







臨床検査技師
西野　航平



臨床検査技師
高森　彩希



臨床検査技師
安藤　碧海



臨床検査技師
嶋田　梨織菜



看護師
医療安全対策室
三田　由美子



看護師
3階南病棟
松本　羽蘭



看護師
4階南病棟
松下　唯菜



看護師
4階南病棟
古川　舞



看護師
2階病棟
長田　望裟



看護師
OP
川﨑　結翔



看護師
3階北病棟
嶌田　麗子



看護師
2階病棟
森　緑



訪問看護師
森下　浩敏



編｜集｜後｜記

久しぶりに「あまいせ」を発行させて頂く事になりました。今回は主に診療科のご案内と新任・退任スタッフ紹介、そして今年の3月末で退職されました循環器科の境野先生からの退任の挨拶を掲載しております。境野先生には延べ26年にわたり当センターにて天草の医療のためにご尽力いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

WHO＝世界保健機関は、5月5日、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて出していた「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の宣言を終了すると発表しました。そして、日本でも5月8日から「2類相当」から「5類」へと引き下げられ、インフルエンザと同等の対応が始まりました。当センターにおいても約3年半の間に、今までに経験したことのない厳しい状況に何度も陥りそうになりながらも職員一丸となって全力で立ち向かい、そして何より患者さんをはじめ多くの方々にご協力いただいたおかげで、なんとか乗り切ることが出来ました。

これから、新型コロナウイルス対策は大きな節目を迎えることになりますが、引き続き当センターでも感染対策を続けていく予定ですので、今後ともご理解・ご協力の程よろしくお願い致します。

文責：新聞広報委員　清田　千草

「がん相談支援センター」へご相談ください

- 面談または電話で相談をお受けします（匿名でも可）
- かかりつけの病院でなくてもどこでも相談できます
- 患者さんやご家族はもちろん医療者からの相談もお待ちしています

治療のこと　病院のこと　仕事のこと　セカンドオピニオンのこと　がんサロン等のこと

相談無料　生活のこと　治療費のこと　心のこと　秘密厳守

熊本県の「がん相談支援センター」がある病院

＊国指定がん診療連携拠点病院、他は熊本県指定がん診療連携拠点病院

熊本大学病院＊	熊本市中央区本荘1-1-1 096-373-5676	国立病院機構熊本再春医療センター	合志市須屋2659 096-242-1000
熊本赤十字病院＊	熊本市東区長嶺南2-1-1 096-384-2111	山鹿市民医療センター	山鹿市山鹿511 0968-44-2185
国立病院機構熊本医療センター＊	熊本市中央区二の丸1-5 096-353-6501	阿蘇医療センター	阿蘇市黒川1266 0967-34-0311
済生会熊本病院＊	熊本市南区近見5-3-1 096-241-0275	国立病院機構熊本南病院	宇城市松橋町豊福2338 0964-32-0826
熊本中央病院	熊本市南区田井島1-5-1 096-370-3111	熊本総合病院	八代市通町10-10 0965-32-7111
熊本地域医療センター	熊本市中央区本荘5-16-10 096-363-3311	熊本労災病院＊	八代市竹原町1670 0965-33-4151
くまもと森都総合病院	熊本市中央区大江3-2-65 096-364-6000	国保水俣市立総合医療センター	水俣市天神町1-2-1 0966-63-2101
大腸肛門病センター高野病院	熊本市中央区大江3-2-55 096-320-6500	人吉医療センター＊	人吉市老神町35 0966-22-2191
熊本市民病院	熊本市東区東町4丁目1-60 096-365-1711	天草地域医療センター	天草市亀場町食場854-1 0969-24-4111
荒尾市民病院＊	荒尾市荒尾2600 0968-63-1115	天草中央総合病院	天草市東町101 0969-22-0011
くまもと県北病院	玉名市玉名550 0968-73-5000		

熊本県がん相談機能発展事業

熊本県の「がん相談支援センター」ホームページ：
http://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/Canconsultation/

熊本県 がん相談支援センター で検索

【お問合せ・相談窓口】天草地域医療センター 医療・福祉連携室　0969-24-4111（代表）